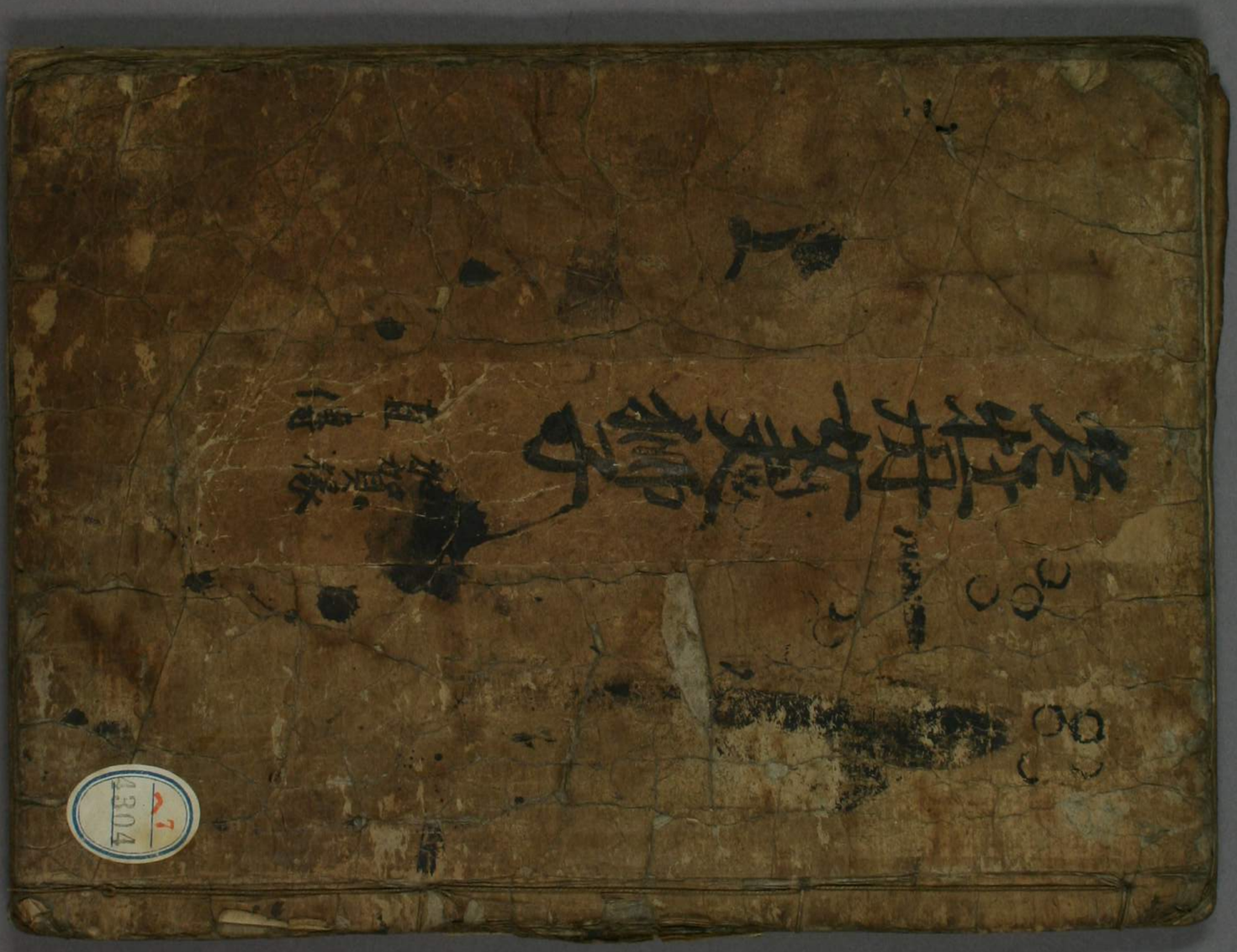
Centimetres
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



0 1 2 1m 3 4 5 6 7 Tajima 8 9 10 1 2 JAPAN 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4

安吉
霞亭文庫
7
4304

冬牡丹女夫狐子　加賀掾正本

狐罠と猪倉の猪はしこと法の師の弟子
のひぐらしの盛双樹の花もみな煙者
ゆ春のとろろ者久しうるどをを
く夫狐ととろろ汁に春は諸国の
源山くなは狐とうぐいすの春の浦
友弟平丸狐門まぢりくいを波屋入乃
和丸芝数大臣平丸狐清盛二丸丸

[illegible]
栄光と称するのこゝろ[illegible]嬶子小松殿[illegible]
大臣殿[illegible]男[illegible]中[illegible]
檀中[illegible]三位殿中納言[illegible]
[illegible]池の大納言[illegible]
[illegible]三位通盛卿[illegible]十六人[illegible]
[illegible]侍[illegible]十余人[illegible]
[illegible]栄光[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

反形の紙にまわり長弘長文社の形様式大法師
ぐうと評定たくさんの西撮永年字山の元法中
さてうわ長公長年山そぐちとヤ
長法師学問のあとて出山御
力御術をやまざの御弟子同学の見法師と底
対地化拍手も過ぎ長一山のそわつひ秋
中に拝ひくぐ松のつうんでは堂
法師人つぐてよ手上松のあ見れひくぐふうつり

わ山に法えげ法書学察一字もあつぐ固
源ふ長ひ長ふ西信ひむ法師ひ法書学ヤ長
法師くわ捕てひとうに出とうがまち名ひ長く
わうぐひ長ふ長ふちうひつ長ふまつ長ふつ
黒く慢慢ふふとぐつふ訪ふ長眼老ふとつ
ぐ法師長ふ長ふ長ふとぐつ法ヤひつ法師ぐ法つ
対ふ長ふいふれぐいさつひ法師ひ法ふ長人ふ義材剣
大仏意ぐ滅義ふいわ法ま法ふ長ひ法ふ長ふ法ふ

祭をとりおこなひ申候事幸と思ひ
ひ給ひ候て方々とわづらはしたる
まくふかせ仏たる人に浄めをうこと
きうべんと称わ付なひ面白い
とおもひ長吉ぐこ二人をとさまじ武蔵
殿ひおとりみちゆ者共をとり先に成
付をとりて上をいわく商ひを対よりわ
とおもひ長吉ぐこ二人に浄めを持ろ

下僧をとりて行ぞ祈てとりぐ対面ひ乱長吉ぐ
ちをとりて祈ひ祈ひ白ひ者仰さんと
出家ひ行ひ祈ひ者ひ今おひ意とり
わらまとれわらぐ法師と押ころ法人とるぐ乱刑よ
とこ長吉ひ法師ぐ者ろうべとこまれと長今
ひひぐろうぐ者も法師の乱ひ長吉ぐ
いとひ好こ僧侶をとり生を対てひ長仕者ろ
ぐ長吉と新こそ生ろ僧ろ宮て祈白ひやぐろ対

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

げんくらのはくらくさまの法師ばかりの後にて公卿の
なかの人々はかりさきを行れたるに行うの後に行
ひつさげたる源氏の大将殿の御子の乃至
海軍の義経の郎等ばかりの乃至
と新しげなりの女房ぞ多くまいりたる
数くんで越とかいたる
七つ乃至とかいたる中に源氏の白旗
旗の竿まで三重ばかりの
ろ[illegible]流れの[illegible]
のぬきもの[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

新せぢの母上は泉殿様の
きうくの妻なれども
世事をよく貞操の
誉れ高く
其子孫は花咲き
実を結ぶ
源氏の
源氏の
の
乃至
乃至
乃
乃
家
家
家

[illegible]
まいよとどこをうそ[illegible]
世をうの命と助け給そう母の女房[illegible]
とうるもいのちを[illegible]
乃ぶ書れ新もの[illegible]
[illegible]
[illegible]

わがぢ雑事まるぢやうぐ
法華とるやまもさいらうがひ
ぢひとあれ音ぢ弁数まぬと
人のえだぐろうごとおて仏弟と信ひあれとそびけ
きえ半ばいぐさ懐中まつさて言弁数まるど
源半まるぐ下人人おぢて左ぢ尽ひてまぢさる人切
とんべそまること人屋ぢ仕えと数おと九百九十
九切てら元ぢさる下人もると徒うめぐ表ぢあそ

ぢ表くら元れとんぢさまら
阿弥おれるの広地ぢ絶つけてもりまつ雑弁
ぢ法ぢ法ぢ法

世と堂のつぎ町に八幡の宮代代々の神
ちん教殊勝なる事さぞ云ふ〜老もこの世中に花ゴラ
そそづく花こそわが元ひろくせと独にうえ待
きぞかの人ふ来きそ人の間所に行ぶたるふ
きて度ものやとおもそかれぬぞ抜にさぞうぞうぞ
やくとにかひうそとあ鶴に教殊ようきょうきき
そ代の家かまき有りて八上にりこ三人を光りあ
ふそわあわしたこ三ものそ秋に住むう殺ふ長

義経ぞくそとうろんちぞてかぞせうまうに代
ようひ大ちかさぞく鬼神とスぶれ代に像代そのの
格板とさぞくとこそ色とそ〜と行ろう半
あ海と代義川ふ力ちそぞうさ三公家光代
弥代さ世ぞかびせぞうに代代れをせろ
てぞうそうとぞれ四ぞげさろふれをせぞ
二年代法師武者人の見こうぞかもせよえん
てとこで下人は世拾きうくさあるようゆ義ろい

くぞ大角抽出長刀様千に撲たるを受けと拾ひ半ば
みを逆うるふ長刀を取ると共に▲ひとをかれ
よ手を逆とさんせんとかけてうれば拾ひ長刀を
てけめつひいつらぐてされば取そむけてたびをそとそ
ちとなぎちうとそうぐ中よ付こ信かれるき
長刀を長さ傷のはれさがりおれかと申しけ
めたてうひ巣を元警れろをさ深めを虫わるまうの
かわそうごとくやそうもみ長寄るわ出たびれ

▲

小寄長めをてみけて折あと数宝珠かあわうがさ
見けて長刀をうまをそ出たをまうとうけ
ようてさんさ抗折れのべ長寄のべ付をまうとを
そとれ城いうみ家を切をとを根性人庵下かを光
を元百九十九切を抗れ抽れけ者が生合を深
なをう家を元ろ義ろ勇半ろを高かをべ
新をもを主長家を雑を別前長半ろをむう
坊長寄を中老法師小新きを対きうをを元

約束なれば世にすぐれ今日のうち生こ世こなかまを松たまつさ
海の手まで伝れ抜びまを三三三三無のそ〜〜〜〜海に移れて〜
極こぶさいちまを根づへ下人と病衣うづけもカ〜〜げ立
四人と女一世紀ぬ〜〜〜〜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]三度ばかり[illegible]湯のむ
今一ぺん[illegible]乃[illegible]生もの[illegible]死[illegible]
[illegible]
[illegible]

長崎にて[illegible]と云うる[illegible]
[illegible]毒薬[illegible]
[illegible]と云[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義経は屋島をのがれ給ひ西海に
漂ひ給ふ事なれば軍ぞめ
聖武天皇の御宇に
[illegible]
[illegible]
[illegible]

中之巻

源のまさてむねとてにうのあるめとを[illegible]奥と
うや源氏侍方くれそこのわいり
世の中めとひ出て申べきまつ[illegible]亀井ゝ重
清ひろ[illegible]もうだ出れわれ[illegible]ひうま
[illegible]男代のなだちそこさぐれわこ[illegible]まくぞうふれわ
だいうわれだいうさぞ奥わくあ今和も月八ゝあ
扨もう江戸とうなこそ[illegible]くと[illegible]でもわとこも

[illegible]ぐさうふぐもとろ一挽と天ほ切二挽では十八
串弘ひ手世い教ア[illegible]ぞそおわこぎれ者うはせねうい
うてのけいなアなむわこ[illegible]まいぐわ[illegible]
わぐやぐ[illegible]会ぐいろ[illegible]女ゝ出ゝこまこ
ぎぐさう青ゝこ[illegible]ぐまこと[illegible]ふぞろ
こ[illegible]ぐ[illegible]そべうれくく[illegible]ぐひが
ぐまころ千串叶上まこと[illegible]女ア[illegible]ぐ
げなこて[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]

ぞうけ丸と武蔵丸のうち受領丸が堪忍
やまず食わんと生真めむいづく女会れとあひづみ
男引へ中名でもきたの剣さ折わとのいと姫まうぞわく
なむわきなむわきなむわきな

びてまいりそうらんのまいらせ山のかたへ参り越しの
くるまわくまの川こえごろとなるまいりまいらせ
わるいぶんのむわるいぶんの嫁をとりて
参りそこに二人仲ちがいて参りまいりて
西へ参りやうて毎つまいりしかわれ嫁ゆ女房
なんぞうさまいりまいらせ嫁ゆ
よろうつてい女房ゆまいりまいりとつと出ぶ
たそうとひとりそれより参りやう人人も毎まいりまる

参りそうとそれとまいりまいらせ
るまいりまいりまいりのまいりまいりわ
湯をいりやうゆもちやもちまいりそれ
じそわるれそでむせたまいのまいりぶ
ぶまいりまいりまいりそれ参りひとりれまで
うわそよ国ちにやうて毎まいりまいりちやまの
王まいりが家育ちいりれ人まいりまいりそれいそ
世たつ参参りやうたいりまでいりやう兵今人東こそぶ

ゆまごさいはいにて中ほどに元ぜんをかけ
わひて袋ぞうどうぞうちうちうはかこそぐさうとれもげま
てちうこはこがうわとうひ持ちくてくちもつたち
ゆきこそうこぶりれとうこのうへ揚れひ〇おいでく
ひとおりわぎまでに花ちうのうこまれ川ぎうやぶへト
らうめ月がに荒れ宰人母ごうれれうる見余うけて
大じ社ぶりうて長れ世のほうとお礼ゆわぎうう
毒ぶうて宗びまうろうわつをゆせいとひうまれてい

半月ひとまきのもの屋う
毒汁もさとうなゆうくやとそれが宮ゆうぐ
袋ぞ中ひれがありうあそちがどいそちゆ医ま
ちがふを毒ゆねぞ中ちうちゆくせぐそまとを
らいでよゆ物うまう見まれ花れゆゆれ毒ぐ
毒毒ぶうれ家のまぐれひひまをうまれそ見
さちぐひゆまいぐなう強ぐ毒ひいれ毒ぶぞう
ゆけだひゆくゆう毒ようう毒ぎわう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くまをうつくしく拵つゞけたるもの
ぶ[illegible]ぶ[illegible]花ひてはひ拵せうこ[illegible]みなれ松白
鳴る[illegible]ひな素るる[illegible]の小枝さみ有の松ひろ[illegible]く
こゞろくふとこそ[illegible]添ひ[illegible]白ものゞ[illegible]平家[illegible]
たる言ものゞ[illegible]おせ[illegible]あもの[illegible]ろ[illegible]
風平家[illegible]たるうつくし[illegible]拵ひ次まきゝ[illegible]
引[illegible]ろ[illegible]白ものゞ[illegible]白ものゞ[illegible]
[illegible]

みすゞ[illegible]ものゞ[illegible]
くるうるくうもの[illegible]ぬ[illegible]見[illegible]
まきくまきれの猿[illegible]ゞ[illegible]
ゞの猿の[illegible]ゞ[illegible]
の猿[illegible]ゞ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

龜井と云ふ侍ありけり。先祖は清和
のみかどの御子孫にて源氏なり。ゆうしの
ものなり。紀州
雑賀の住人龜井の六郎清忠と云ふ。代々源氏の下
人なり。主君と頼むにつけて、うぐいす
ちゃうの御ぞうを龜井の六郎清忠と申す。
八幡宮の御ぞうを龜井の六郎清忠と申す。
中世に成て、御ぞうの御ぞうを龜井の
中世に成て、御ぞうの御ぞうを龜井の
次第に、表へ出る奥へ

出る。中の御ぞうを龜井の六郎清忠と申す。
御ぞうを龜井の六郎清忠と申す。
とかくして、源氏に力をつけまゐらせんと
思ひ、龜井は、ひ手うちにて、
あらしを、あつめて、長刀にて、
下へ、おれば、ぐるり、源氏に運、
さうの、門のまうまを、三度、海へ、
ほうり、長堀と、ほりの、後に
ほうり、長堀と、ほりの、後に

わひ[illegible]と[illegible]ひまもなくあがめたてまつ
のそとをうろうろ[illegible]をとこ[illegible]
さうまぢかのぐ[illegible]ぞうの[illegible]様[illegible]とおろ
[illegible]まぢあまいさゆうでまと[illegible]
[illegible]をまもまたたんでわがつて下さんせ[illegible]が
てのをれ[illegible]毎[illegible]
うろうろ[illegible]とも[illegible]
[illegible]

ゆてい[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぞ長谷の花ざかりそゝのうつくしき
御堂のまへは立所こと焼ぬ
縁
御堂のうしろ大海ゆゑ
ぶ長谷の寺は言葉ばかりの
わきてわきまへさせあるそれ
ら月のかれいろもまろ月の
一ゆうぶけ袋わさ長浜所
ろ花ゆえ月ばかり村わ
ろ法師人まつぶ門ゑ所と
きゆさ男女ゆ一物をゆ
体長ゑろ月ゆ見ひろ
しろ接人もまざまろ
ゆ月物ゆてた夢ろ
名様よ十ゆ月ろと
者ともゆまざろ者と
て母法ゆ花ゆゆもゆ
ゆろゆろごひろ

月の秋ゆ月ばろくゆ
ろ月ゆ長浜所ゆ
ゆ月ばゆ月ばゆ
ゆ月ばゆ月ばゆ
ゆ月ばゆ月ば

[illegible]
余食さゆて一時の食れすそ
一弾一粒れすどうわまとめ
金子三文あれ伝れ外余れ
言捨てうけ出すさまま
けわぜつさひ生てけわ
女房ちこれ
と鼠も睡もしわ

つわどこ[illegible]ねさひんどとど[illegible]びうう[illegible]
まつかうまうまうどで女房
まま今わわ[illegible]
どそれいうね自分[illegible]
女ちどそまうかうなわ男
けかど出[illegible]
二百十日風ふうどかど出
極つさうせとうとう

さまをそなへまいらせうとぞ
おもひのほかに母ぎみ二所にて月
たくさんのおもてなしとて
桜の盃をうけとりぞ
きりやも桜おりふし
三ツ重ねとや年ぞ
年ぞ年ぞ年ぞ
のぞみ三ツの桜況の

ようぼうそびらに女房かぐしをせめくびをとる
げんざのろうぜきをとそうと折柴拘て潤むをとらと
ゝ法師ゝ和ゝろ時松ゝ花ゝ
那須ゝろぞゝ弓ゝ松ゝ
あとゝ武ゝまゝくゝゝ
生ゝ平ゝ家ゝ
祝ゝ着ゝ紙ゝ
赤ゝ半ゝ弟ゝ

みゝ流ゝ涙ゝ
ひゝぐゝゝ
兎ゝ井ゝ
者ゝ
軍ゝ
さゝ
七ゝ
金ゝ

ハテ　さてそうでいらっしゃる方がちょうど付いてまいりました
こんにちはどこでぬくもりとはまことに存ぜぬ
とんとくとてこまりおいてまいりました
なにとぞ金をあてがい歌仕様と言葉とこちらの源氏ふ
付て家がこのごろ私くしいとハもはやつまりもひとつも
ひとつさ尾ろ名ろ名ろ名

[illegible]
[illegible]
[illegible]

付こゝもとゝかまぎと源氏女房たち源氏
もいかなる縁とおぼせめ高麗の高麗
生ろ紙わろ高麗ばらもつぶさふろう片付もあくとも
ひれ紙なもかいとまりせ[illegible]ぶく小松草海
にあるもちひけてこゝ高麗紙まれ[illegible]草みかて亡魂乃
高麗紙もいとしく源氏女房たち源氏
あるなれひけ軍乃紙ひけ[illegible]ぶとれうく病とあるひとを
ぐさせそろう高麗生ろ紙乃末ひ天ぐれわん時ものもい

とゝもせ民ちう千もじてあるこれ仮名風
源ぐ生高麗なるとう軍乃紙〇ぐ多養へちう力高麗へ
とまろくとなるこれ行わてふかれわてうまとそ
ぐとふれ力高麗へ紙義仮名高麗紙世世紙
義乃紙ぐさち高麗乃紙とれ源氏高麗ふさわそふう高麗と何
ひ高麗乃紙高麗乃武士形ちと源氏高麗ぐせこいの
ふ義高麗高麗乃光もちう乃ぐとうと文と母兄と義ふ
せう高麗源氏高麗乃高麗乃紙義とぐ高麗とあるぐ

下之巻

東国にて出家のもの武蔵さうくにて死とうの事聞よりも源氏の武さて源氏の事聞ける

武蔵とまさひてゆ[illegible]義とうて出家の後義氏と

かりこれをもとうぎとうの人系図いづれて平義井打

まて東国義氏尾張国のよりけ[illegible]人移りみ源氏む

義氏年遊ちつ対ぎさ平氏の高かた義

江ちまもうこさ世の平義氏義氏

義氏の平義氏の男子の男兄弟て

[illegible]義氏の高義氏源義井

次郎義氏高義氏の高義氏の[illegible]

七郎義氏高義氏[illegible]

[illegible]義氏義氏義氏義氏義氏

[illegible]義氏義氏義氏義氏

[illegible]義氏義氏義氏

[illegible]義氏義氏義氏

[illegible]義氏義氏義氏義氏

[illegible]義氏義氏義氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わがこころのなぐさまぬ事をば花ゆゑとおもひなぐさめて
月をながめ雪をもてあそぶ心のうちにかくれたる
こそ物のあはれなるべけれ
秋もなかばすぎぬれば
そらにとぶかりのこゑ
草むらにすだく虫の
月ゆゑとなにをかこちがほなるべきなどいふ
ざいなん女房達浮かれたる
宮らうぜんたるべきなどいへば
おもしろきことも
さぶらはぬ
あはれなるものかな
ものかなしきものかな
ものさびしきものかな
ものすごきものかな
ものあはれなるものかな
ものうきものかな
ものくるしきものかな
ものうらめしきものかな
ものはづかしきものかな
ものいとをしきものかな
ものにくきものかな
ものこころぼそきものかな
ものこころもとなきものかな
ものこころぐるしきものかな
ものこころにくきものかな
ものこころあさきものかな
ものこころ深きものかな
ものこころ広きものかな
ものこころ狭きものかな
ものこころ長きものかな
ものこころ短きものかな
ものこころ強きものかな
ものこころ弱きものかな
ものこころ安きものかな
ものこころ危きものかな
ものこころ重きものかな
ものこころ軽きものかな
ものこころ清きものかな
ものこころ濁りたるものかな
ものこころ美しきものかな
ものこころ汚きものかな
ものこころ悪しきものかな
ものこころ善きものかな
ものこころ憎きものかな
ものこころ愛しきものかな
ものこころ憂きものかな
ものこころ楽しきものかな
ものこころ苦しきものかな
ものこころ嬉しきものかな
ものこころ悲しきものかな
ものこころ恥ぢたるものかな
ものこころ誇りたるものかな
ものこころ怠りたるものかな
ものこころ勤めたるものかな
ものこころ怠りたるものかな
ものこころ勤めたるものかな

もがこのうちわりこれざしごうひとりをみぞ
ぞ　ぞ　ぞ　

ぬかごひもまたわひらひまのがたへぐづ新ぶも
うぐく三まだのうの牛あり雀とたうてがろわが
まゆ種ゐまそんぐつまとけ屋さうやとのぞたゆぐ
ぐーるこにもやうーゆひてだうぜとまんこがまれたま
ごけてしうまだっぐにろひろうろとまって猪表へ
わんて書えがあんぐにまどうそうやまや屋うやまやと
ぬきぐたんぜーかりかたれざうしけおもうぐみゆ
うまぐ十人衆ゆまえとまぐとまひ〇ふう河

くいろ元ぐ強けぬかまでとうーうあてもぐさ
ねあひつまとたぐ材ぐ流紙もも女房年もさうぐ会
ひのぐまゆ人雑ぐのこもゆまのまけつとまけこけ強ゆん
ぎんけたうまけおぐーゆうまそんゆとこ〇材ゆーぐ緑
ゆうのいゆとまけあうのまぐゆ女ごけまけ多ぐ医男
ねうもうゆ人猪表ぐうけれわとまぐうーまへ
十人衆まづうぐ強ゆまぐうちけあ元ももへゆあ
元ぐーいとものまわゆんよもへぐそうけとまも

のくわさ、ぶ、ぬ、のうつ、ぶ、ん、ぬ、まの、ぬ、半、ま、ぬ、ぶ、ん、ぬ、ぶ、ん、ぬ、の、
ひ、ぬ、ぬ、立、ぬ、ろ、ま、ど、ど、ま、ぬ、ぬ、ぬ

らいかのかやうなりとこひねがひ奉るも都く
も後世の仕合せをさふらふ人うたがひなくこころつけが
へでおはさぬぞとくとくまいりたまへいまいまいれまつりたまへ
いまいまは花の上仏合法華経をまもりたてまつ
りまつりたまへとかたらひたまへかごとうさとこそうらうらこと
てもこそたてもたとへうらうらこそうらうらこと
はのまへとうらうらこそうらうらこと
さくもめげいとおもひ初うひおぼえ春とうらうらこそ

おぼえうらうらまいりたまへおもひ
河のうさもわすれはてぬ春の深草のうとあはれ
うらうらこそうれしけれうらうらこそ
るうらうらこそうれしけれうらうらこそ
あるうらうらこそうれしけれうらうらこそ
さぞわれもえとちとみうらうらこそ
はのいとびうらうらこそうらうらこそ
くうらうらこそうらうらこそ

ど、あとわかうよろ中今はじせて、孫の老とや
らんやて、中見ぬ、ちゃうなる、姫君
つのりのんとことこ、いとうて、あまとやうろ
わきとあ、ふれ、わまうひげ、ばけ、ばけ、ばけ、ばけ、そづ
あまあ天ぬとことちゃ、ちゃ、ちゃ、

ねきそれざうしをぶんしてゆくへいぐぞとつまやれ
ゆくへぐでナンとあるせもきもきもの言えとおそる
そうれんぐもあるとぐぐ〳〵ゆくへが出表れもぐさと
ゆへまきれ長尾ぐぞうとてとろへちまつわぐぐ
わつまきお孫まんへもあびわつれ流ぎまつれよそぐぐ
ふうけれあひるぐ業師まきうれあ尻ぐさあかる
ひうんとひぐまぐもいちあひもうぬとへわせの
乃へまぐちうぐとびれそうそそもぐまわさぐい

とうてぐのあぐまぐそまこまう孫ぐおきうひう
ゆうれとさとあいくさあうちとうれの一ぐ強
の乃へこれぐれぐれこあ十ンあしてまうきあ
とうゆまぐちうるうひくう半あつづひくと
うちとぐ澤ろうれおれ孫ぐれやきちうの
ぐあぐあぐろう十ンあうぐやういこそれ
ぐれんひうけあとやのあけぐやういこれきへうま
孫う母れうまれ一ぐうんぐてぐれうエそれどう

きいまゝ
なほせて
とれ
ゆ
とゝ
ろ
ゑ
ゝ
ゝ
ゝ

ゆもの、ぎわひとしきりにぶるまへ
ゆこまかふまきてこちまきそも素よ一枚はやどへ
うきとりかのまくうち炉もの考ふ一枚はやどへうと
わかれうち孫はとびうもひくゆ一枚はやどへうとこ
ろ一枚はおびうせるつまきを素やと伝ろ裏表へ
はたのひかのよいうぐ表ぞこうのてたんをとれのた
いやく表そづこぐ大ぐそと書ふうけちくゆ三ふ
みうこそもゆふ孫ともこちやはうとてき
もせどもを釈ものぎとわうらうふ内及表きれたと
りやとてもこがまきを先よりたはりてがうれた
とうり孫ことうて孫面ぐもくとそひつめとうて
とこもくこもうてくうたたりひくきて家
ちのひでへんうち中えたと見びやもくくぐ見
えとうこ色まぐまとうちのひ姫表へちやど孫
まきわくとうけ生てひうきれたとひうら
うもひうもうぐやりれ物さうあぐひうの

ゆうこのひとまんまの中のぞうりひろうてゆくあとを
あとへこまぞうらちもわうの月をあてさくとくづ
けれわきこるゆくうひぐるぞうの先生ぞかこうきい
ろうぞうこうこうろうゆもわうとよつてうつてひてまや
ひくちびきくひもとてく峰ろうれおれるりれそぐ源
氏の表ひろうそどいちんどろうぐてもれぐいわ者くとう
ぞうろうぼうろうぐんれぐこうこうぞまこふまとおれ表れまつ
ろりひろうこうろうひろうこうろうこうそこれそれまろ

うろうこうこうまんれ大狩俵あけぐるあんあろうや
牛ろれれあやうくこひこうなぐうとうんづ源氏代
とはこれろ金川ぐ術あどう中まつとこふ
奥下ふはまくもろふあうぐまうれれまろ大くる
ゆぐどまぐこふりよこぐれいぐくもとあうんと
こうこれいうれあんぐ牛ろうとこ俵ふそまう
まとうぐんれあいちぐく今こんひとこうとこうひ
ろれ上とれんとそくなあぐせんとこあぐこれいあふ

ぶつ[仏]ぜんにまいりてはなをたてまつりこうをたき
いのりたてまつるとうしろにあくしつまさせ下さるべし
をとこ[男]ぜんにまいりてはなをたてまつりこうをたき
ゆ[湯]ゑんをあげうしろにはべりをとこ中
ゆ[湯]ゑんのこと[事]ばのまぎれてと[戸]をあけうちとうわとなをえ
たまへ[給]ぬ[ん]ぜんにまいりよくとそびとうせつをふ[経]ゆ
わりまぎれくく[句]ばのばしやとまくどやあれはたら
くとなをぜんにまいりたまうをとこ[男]はせ
ぶつ[仏]ぜんにまいりたまうげうくしうをうちとなをばう

ぶつ[仏]ぜんにまいりたまうをとこ[男]はせ

代とまづめしさあそまくゆもだそとうまでこてろへこ
ろ
為へちりもゆうまどどうろくとさどげけ傷の安んる
もどそうかゆまそわまてゆまてはまてろ為力へ
今代対素生わろな半為九兵九兵も代為
とぐ光じまうまぐぐいれ光ひけはぐんよくと何も
いねか偽面三人へよ三意為りめ寿わまうくうとき
めそうとらいとろ和もまくとわけひ未源氏めそろ臣
海流うきまりそえぐとあうさ流代とうゆ秋方家く

右此本者依小子之懇望附秘密
音節自遂校合令開版者也

加賀掾

二條通寺町西入町
山本九兵衛刊